

北海道浮魚ニュース

平成27（2015）年度10号

2015年7月31日

道総研 水産研究本部 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigun/ukiuo/index.html>

◎平成27年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

2015年7月31日に水産総合研究センターより予報文が発表されましたのでお知らせします。なお、下記のHPに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ご覧下さい。

URL：<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

【漁況予報】

予報期間：2015年8月～12月

対象海域：北西太平洋（道東海域から三陸海域）

対象漁業：サンマ棒受網

魚体区分：1歳魚の肉体長（≒体長）は6月～7月の漁期前調査時におおむね27cm以上、8月以降の漁期中は28cm以上で、いわゆる大型魚（29cm以上）に相当する。0歳魚はそれより小さく、漁期中のものは中型魚（24cm以上29cm未満）、小型魚（20cm以上24cm未満）およびジャミ（20cm未満）と区別されている。

①来遊量

来遊量は昨年を下回る。

②魚体

漁期前半の10月ごろまでは1歳魚の割合が高いが、漁期後半には0歳魚（中小型魚）が主体となる。漁期全体における漁獲物の1歳魚の割合は、昨年（81%）を下回る。

③漁期・漁場

大型船出漁直後（8月下旬）の漁況は悪く、漁場は色丹島～ウルップ島東方海域までの広い海域に分散する。9月になると漁況は上向き、道東海域にも漁場が形成される。三陸海域への南下時期は平年よりやや遅れ、漁場形成は10月中旬となる。

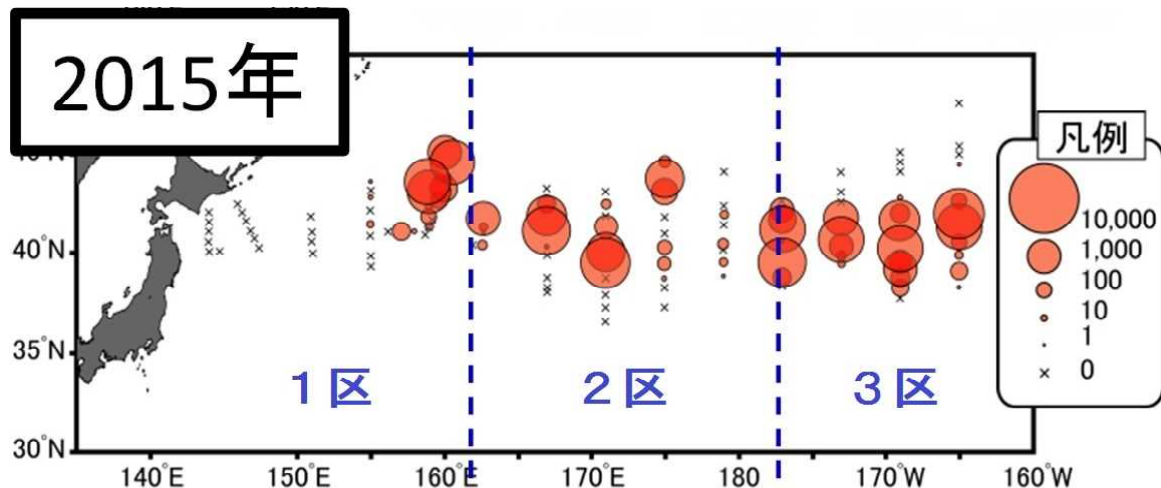


図 2015年6～7月に東北区水産研究所が行った漁期前調査における1調査点あたり漁獲尾数

①来遊量

東北区水産研究所が行った表層トロールによる漁期前調査（2015年6月～7月）の結果では、1区（日本沿岸から東経162°）の推定資源量は24.6万トン、2区（東経162°から西経177°）は111.5万トンであり、昨年と比べ1区（2014年：18.8万トン）はやや上回ったが、2区（2014年：171.7万トン）では減少した。また、東経157°以西では一調査点あたりの漁獲尾数は10尾以下であり、1,000尾以上採集された海域は東経158°以東の調査点のみであった。そのため、2010年以降の1区

の資源量が少ない状況は2015年も継続していると考えられた。東経158°～171°では主に北側の調査点で1歳魚が中心のまとまった漁獲があったが、その東では南北方向の分布の広がり狭くなり、さらに東の東経179°線上の調査点では採集尾数が少なく、分布が途切れていた。釧路水産試験場が北緯41°30′～46°30′、東経151°30′～162°30′で行った流し網調査（7月2日～15日）の結果では、流し網1反あたりの漁獲尾数は33.7尾/1反で昨年（21.2尾/1反）を上回った。このうち、東経158°30′～162°30′では漁獲が多かったが、その西側ではが少なかった。また、開発調査センターが行った棒受網による公海サンマ漁場開発調査（4月19日～7月14日）の結果では、6月以降まとまった漁獲があった海域は東経157°～東経162°30′に集中していた。

これらの調査結果では東経158～171°付近まではまとまった魚群が確認されたが、東経158°以西海域ではいずれの調査でも分布量は少ないと判断されるため、**サンマ魚群の日本近海への来遊が遅れ、漁期始めの漁況は低調に推移する。その後東経158°以東の魚群が日本近海に来遊して漁況は上向くと予測される。**漁期前のサンマの分布状況が同様であった2010年以降では9月中旬には漁況が上向いたため、遅くとも9月中旬には日本近海漁場への来遊量は増加すると考えられる。しかし、2区の海域全体での推定資源重量は昨年を下回り、特に、漁期前の分布が東経175°より東では途切れていることから、**漁期を通じた来遊量は昨年を下回ると判断した。**

②魚体

6月～7月に日本近海から西経177°以西海域での1歳魚の割合が高い年は、8月以降の棒受網による漁獲物の1歳魚の割合も高くなる。2015年6月～7月の東北区水産研究所による調査結果では、西経177°以西で採集されたサンマ全体に占める1歳魚（27cm以上）の推定資源尾数の割合は57%で、昨年の72%を下回った。これを経度10°間隔ごとで集計すると、東経150°～160°および東経160°～170°では1歳魚の割合は非常に高い（それぞれ93%、89%）が、東の調査海域ほど1歳魚の割合が低下した。東経163°以西で行われた釧路水産試験場による調査結果でも、調査海域全体での27cm以上の個体の割合は高かった（96%）。また、東経域で実施された開発調査センターによる調査でも、27cm以上の割合が高かった。

これらの調査結果をまとめると、日本近海から東経170°までは1歳魚の割合が高いが、その東側では0歳魚の割合が急増する。漁期には調査時に西側に分布した魚群から順次日本近海の漁場に来遊すると考えられるため、**漁期の前半は1歳魚である大型魚の割合が高いが、漁期中盤から終盤には0歳魚である中小型魚の割合が増加すると予測される。**昨年は漁期前に東経域全域で1歳魚の割合が高かったが、今年は1歳魚の割合が高い海域が東経170°度付近までであるため、**漁期を通じた漁獲物に占める1歳魚の割合は昨年の81%を下回ると判断される。**

③漁期・漁場

サンマ漁場と表面水温は密接に関わっており、過去5年間における8月下旬（100トン以上のサンマ棒受網船出漁直後）の漁場での平均表面水温は15℃前後であった。気象庁発表の海面水温・海流1か月予報（2015年7月18日～8月20日まで）によると、今年の道東沖海域の表面水温は、釧路沖では平年より高い海域があるものの平年並みで、表面水温15℃の等温線は択捉島南部から東方沖に伸びると予測されている。また、2010年以降、漁期前調査時に日本近海のサンマが減少し、8月下旬から9月上旬の漁獲量が少なく8月下旬の漁場は分散する傾向が続いている。今年も6月～7月の調査時に東経158°以西海域の分布密度が低いことから、昨年までと同様に日本近海への魚群の来遊は遅くなると推測される。以上のことから、**100トン以上のサンマ棒受網船出漁（8月20日）直後の漁場は、道東海域からは遠く、色丹島～ウルップ島東方海域に分散して形成される。**

【海況予報】

《今後の見通し（2015年8月～9月）》（注）FRA-ROMSシステムによる結果

- ①近海の黒潮の北限位置は平年並み（北緯35°40′～36°20′）で推移する。
- ②近海の黒潮系暖水の北限位置はやや北偏～かなり北偏（北緯39°～40°30′）で推移する。
- ③襟裳岬南東沖の暖水塊は停滞し、三陸沖の暖水塊は北上する。8月には三陸はるか沖に暖水塊が発生する。
- ④親潮第1分枝の南限はかなり北偏～極めて北偏（北緯41°以北）で推移し、三陸近海に冷水域が形成される。
- ⑤親潮第2分枝の南限はやや南偏～やや北偏（北緯39°30′～40°40′）で推移する。
- ⑥津軽暖流の下北半島東方への張り出しはかなり強勢（東経143°20′～143°40′）のち極めて弱勢（東経142°20′以西）で推移する。 ※海況の今後の見通しについては、下記HPを参照下さい。
東北区水産研究所（東北海区海況予報）<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html>
(釧路水産試験場調査研究部、TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225)